

公募 第71回 東洋書芸展

会期 令和7年12月4日(木)~11日(木)
9時30分~17時30分
(入場17時迄、最終日は14時迄) **入場無料**

主催 東洋書道芸術学会
後援 中華人民共和国駐日本国大使館
読売新聞東京本社





乾杯発声 清水康友氏



松本鳥城会長



ご来賓
萩生田光一氏



審査員の先生方

当会関係出品者（順不同）

千葉 梅流

鈴木 晴山

宮部 北晴

土橋 香晴

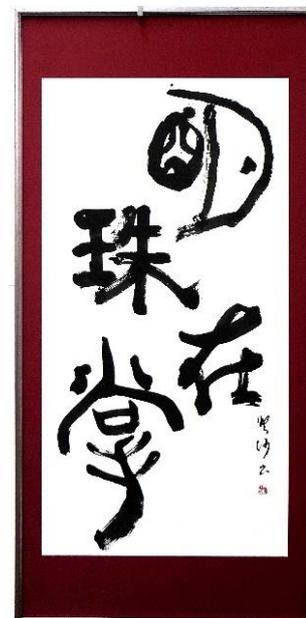
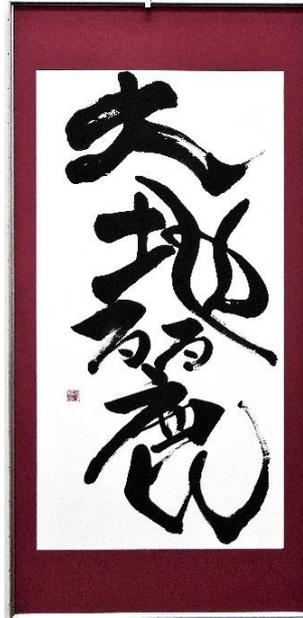
鈴木 奎晴

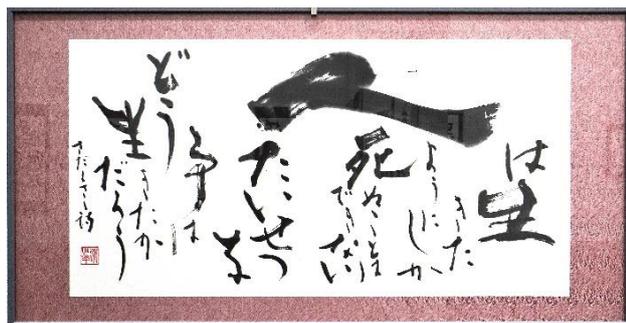
小野寺北華

村上 文晴

森下 映沙

宮澤 星河





佐々木 北翠 (半切)
吉田 翠晴 (半切)
青木 清華 (全紙)
鈴木 清香 (全紙)



淵脇 晴花
鈴木 青鳥
藤澤 北静



アンデパンダン部門出品作品

第71回東洋書芸展が上野東京都美術館に於て令和7年12月4日～11日まで開催されました。期間中の12月6日に表彰式とレセプションが上野精養軒に於て開催されました。高市首相の台湾有事発言が発端で中国との政局が緊張する中、中国出品者の方々が来賓出席されたことは文化交流の流れを絶やすことが無くて、よかったと思います。全体の出品点数は昨年とそう変わらずでしたが、半切の入選作品が昨年の半分になってしまい将来を案じております。

今回展の印象で紙面一杯に文字が重なり合う傾向があり、開会の辞で以下のことを申しました。

12月22日は筑峯先生16回目の祥月命日ですが、その筑峯先生が著書の中で「余白は計算されなければならない。文字の個性と調和が余白によって精彩を放つ。」と述べられています。芸術を評する言葉に気韻生動と言う言葉がありますが、余白によって精彩を放つがこれに通ずるものがあると考えます。余白を生かした作品作りをお願いいたします。

